

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K17620

研究課題名(和文) 安心と信頼の視点から見る留学生のソーシャル・サポート・ネットワークと異文化適応

研究課題名(英文) International Students' Social Support Networks and Intercultural Adaptation:
From the Perspectives of Sense of Security and Trust

研究代表者

叶 少瑜 (Ye, Shaoyu)

筑波大学・図書館情報メディア系・准教授

研究者番号：00762204

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究を通じて、日本人に対する信頼感は留学生のストレス感の低減や日本における被受容感の向上には有意な効果があるのに対して、同国人に対する集団同一視はかえって留学生のストレス感を高めてしまうことや、他国人に対する信頼感は留学生のストレス感の低減と被受容感の向上には効果がないことを解明した。また、非中華留学生にとって集団同一視が同国人から得られたソーシャルサポートとは無関係であり、コロナ禍において中国本土の留学生とその他の留学生のメディアによる情報収集と不安解消行動が異なっており、日本人からのサポートがいずれも不安解消行動には強い効果があることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は留学生の異文化適応において、メディア使用との相乗効果を含め、外集団に対する一般的信頼感の効果は日本人と他国人によって異なることや、内集団に対する集団同一視は中華系・中国本土の留学生とその他の留学生によって、ソーシャルサポートネットワークの形成やストレス感の低減、被受容感の向上に異なる影響を及ぼすことを明らかにした。

これらの成果を踏まえ、今後外集団特に日本人に対する信頼感を高めると共に、集団化しやすい中華系・中国本土の留学生とその他の留学生に対して異なるソーシャルサポートを提供する必要性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：Through this project, it was clarified that international students (IS)'s generalized trust toward Japanese people have significant effects on decreasing their feelings of stress and improvement of sense of acceptance in Japan; whereas their group identification toward same-language speakers increased their feelings of stress and their generalized trust toward other-language speakers had no effects on their improvement of sense of acceptance. Additionally, for non-Chinese students, their group identification toward in-group members had no relationship with their social support received from same-language speakers. Furthermore, ISs from mainland China and other ISs had different perceptions of the COVID-19 pandemic and used different media to collect relevant information and relieved their anxieties, and social support from Japanese people had significant effects on their anxiety-relieving behaviors.

研究分野：異文化心理学、メディア心理学

キーワード：異文化適応 一般的信頼感 集団同一視 ソーシャルサポートネットワーク メディア使用

1. 研究開始当初の背景

大学の国際競争力を向上させるために、日本政府は2008年に、2020年をめどに30万人留学生の受け入れ政策等を打ち出し、2008年より実施している。それゆえ、高等教育、特に大学院における留学生数は著しく増加している。留学生の日本社会への適応を向上させ、彼らの学びを最大化し、日本人特に日本人学生との交流を活性化することが非常に重要である。

このような背景のもと、申請者はこれまでにPCやガラケー、スマートフォン（以降スマホ）の利用が留学生のソーシャル・サポート・ネットワーク（SSNs）の形成、及び異文化適応に与える影響についての研究に取り組んできた。SSNsとは、家族や友人関係などのように継続性がある関係で、互いに励ましあったり、面倒をみたり、方向づけをしたりして、日常生活のあらゆる側面で力になってくれるものである（Maquire, 1994）。従来、日本人を含む充実したSSNsが留学生の異文化適応の向上に有効とされてきたが、申請者は留学生のガラケー・スマホの使用はある程度異文化適応の向上に役立つが、日本人との異文化コミュニケーションを促進する効果がない（叶・室田, 2014）、日本人学生を含むSSNsが留学生の異文化適応の向上に有効なのは対面のみであり、コミュニケーションメディアを介したSSNsには同様の効果がない、うまく適応できない留学生は音声通話等を多用して、多くの母語話者同士と交流している、留学生のSSNsはメディアを使用することで容易に広がらないことを明らかにした（Ye, 2017）。

従来、語学力の向上に伴い様々なメディアを用いて、日本人との交流が増加すると期待されたが、申請者の検討結果では、高度の語学力を有する男性留学生は、対面でもインスタント・メッセージングによるテキスト（以降IM）を介しても、日本人学生を含む他言語話者とほとんど交流しないことが明らかになった（Ye, 2017）。異文化適応の向上は自尊心と被受容感に大きく関わっていることから（内田・福本, 2015）、語学力の高い女性留学生に比べて、語学力の高い男性留学生の方が自尊心が高く、被受容感が低かったことに由来するのかもしれない。このような個人的要因が、メディアと相互作用して日本人との異文化コミュニケーションを阻むと思われるが、まだ解明されていない。

山岸（1998）によると、人間は2種類の社会的知性をもつと言われる。1つは「関係性検知能力」と呼ばれるもので、集団内で安心していられるために、仲間を見極めるのに必要なものである。もう1つは「人間性検知能力」と呼ばれ、外集団の人々を信頼して付き合えるかどうかを判断するために用いられるものである。前者は集団生活という「閉じた社会」に適応するために必要なものであり、後者は「開かれた社会」への適応には不可欠な重要な能力である。

留学生にとって多くのSSNsを有することは、より多くのサポートが得られることを意味する。しかし、その形成プロセスは相手との関係によって大きく異なると考えられる。内集団に対する安心感に頼り、同じ留学生グループという内集団から受けるサポートが多ければ多いほど、その集団から離れると適応できなくなるおそれがある。それゆえ、外集団の人々と信頼関係を築くのが難しくなる。それに対して、外集団の人々に対する信頼感が高ければ高いほど、知らない人ともすぐ仲良くなり、信頼関係を形成することができるため、より多様なサポートが受けられる。とりわけ、日本文化に対する理解を深め、日本語の学習などを通して日本社会に適応する観点から、日本人という外集団に対する信頼感を高めることが非常に重要である。また、外集団に対する信頼感の高い人は、その外集団に属する人々に関する情報にもより敏感で、正確に理解することができる（山岸, 1998）。このことから、外集団の人々に関するポジティブな情報が多ければ多いほど、それに対する信頼感が高まり、その人々と信頼関係を築き、SSNsも形成しやすくなることが示唆される。

しかし、前述したように、留学生らのSSNsはメディア使用により容易に広がらないことが明らかになっているが、内集団に対する安心感と外集団に対する信頼感を考慮する場合、それらがどう変化するかは不明である。日本人に対する信頼感が一体どのように留学生のSSNsと関係するのか、内集団に対する安心感による影響と対比して、検討する必要があると考える。また、言語や文化背景が異なるという観点から、ほかの国・地域出身の留学生も外集団になるが、そのような外集団に対する信頼感や留学生のSSNsの構築や獲得するサポート、異文化適応といかに関係するのかについても、日本人に対する信頼感の効果と比較・検討する。

さらに、申請者のこれまでの検討結果より、留学生のSSNsは対面によるものが人数が最も多かったが、IMによるSSNsは対面の約9割、音声通話も対面の8割以上であることが分かった。つまり、留学生の内集団に対する安心感と外集団に対する信頼感がSSNsと異文化適応とどのような関係にあるかの検討をするには、メディア使用の影響を抜きにしてはならない。

2. 研究の目的

上記の背景及びこれまでの研究成果をもとに、本研究は留学生の内集団に対する安心感・集団同一視と外集団に対する信頼感、及び両者がそれぞれSSNsと異文化適応とどのように関係するかを究明する。研究期間内には以下のことを明らかにする。

(1) 留学生の個人特性と共に、留学動機や日本文化への理解意欲、日本における被受容感がいかに内集団に対する安心感と日本人に対する信頼感と関係するのかを明らかにする。

(2) 留学生の内集団に対する安心感と外集団に対する信頼感がそれぞれ SSNs と異文化適応にどのような影響を及ぼすのかを見つけ出す。

(3) 上記(2)の関係は、対面によるものと多種多様なメディアによるものでいかに異なるのか。また(1)に示した個人的要因との関係性も含め、異文化適応とどのように関係するかを究明する。

3. 研究の方法

上記の研究目的を達成するために、本研究では留学生の内集団に対する安心感と外集団に対する信頼感が彼らの SSNs と異文化適応といかに関係するかを解明する。具体的には以下の通り調査を実施した。なお、留学生の日本語能力の欠如による問題を避けるため、以下の調査について、2017年度と2018年度の調査は日本語版・英語版と共に、中国語版(簡体字と繁体字の両方)と韓国語版を用いて実施し、2020年度と2021年度は日本語版・英語版と共に、中国語版(簡体字と繁体字の両方)を用いて実施した。

(1) 留学生の内集団(留学生同士、特に文化背景が同じ人たち)に対する安心感と、外集団(文化背景が異なる人)に対する信頼感が彼らの SSNs と異文化適応とどのように関係するかを究明することである。また、SSNs の形成と効果は対面によるものと、多種多様なメディアによるものと比較していかに異なるのか、個人的要因との関係性も含めて検討を行う。そこで、今年度は留学生の外集団に対する信頼感がいかにソーシャル・サポートと関係するのか、それは留学生の語学力(日本語能力と英語能力)や自尊感情、一般的な日本人学生に対する好意度に関連するかどうか、これらの要因が日本における被受容感や異文化適応とどのように関係するかを究明することを目的とした。2017年6月上旬~7月上旬に関東地域の国立大学に在籍する留学生を対象に横断調査を実施し、206名の有効回答者を分析対象とした。

(2) 2018年度は変数間の因果関係を推定できる縦断調査(パネル調査)法を用いて、6月中旬~7月下旬を1時点目、2019年1月中旬~2月下旬を2時点目として、関東地域の4つの国立大学に在籍する留学生を対象に調査を実施し、検討を進めてきた。また、SSNs の構成(日本人・同国人・他国人)、そこから得られるサポートの種類、そのネットワークのメンバーとの関係などについて、対面とLINE や WeChat などのようなメッセージング使用によって異なるかどうかを検討した。その結果、1時点目には213名が回答し、そのうち欠損値のあるものを除いて209名が分析対象となった。2時点目には132名が回答し、1時点目と合わせて最終的に分析対象になるのは128名であった。

(3) COVID-19 の拡大に伴い、留学生らがコロナ禍でどのような状況になり、COVID-19 に対する認識やその関連行動、得られたソーシャル・サポートがいかに異文化適応と関連するかを究明するため、2020年6月中上旬に関東地域の大学に在籍する留学生を対象に横断調査(ウェブ調査)を実施した。その結果、367名の回答が得られたが、回答時点で日本国外にいる留学生34名を除いて、最終的には333名を分析対象とした。

(4) 同言語話者(内集団)に対する集団同一視と他国人(外集団)に対する一般的信頼感が彼らの異文化適応にいかに関係するか。また、留学の動機付けや様々なメディア使用やそれらに対する信頼感、及び SSNs の構成が異文化適応といかに関係するか、中国本土出身の留学生とその他の留学生によってこれらはいかに異なるのかを究明することを目的とした。そのため、2021年11月中旬~12月上旬に留学生を対象に横断調査(ウェブ調査)を実施し、394名の有効回答が得られたが、最終的には調査した時点までに3か月以上日本に滞在していた364名を分析対象者とした。

4. 研究成果

本研究プロジェクトでは、合計3本のジャーナル論文を公開し、国際学会・招待講演1回、国際学会・一般発表6回、国内の全国大会・研究会にて4回に渡って研究成果を公開した。以下は各年度の調査に基づいて、主な結果をまとめる。

まず、2017年に実施した調査結果から、以下のことを解明した。

(1) 自尊感情の高い留学生は一般他者に対する信頼感が高く、また、一般的な日本人学生に対する好意度の高い留学生はより多くの日本人と接触することができた。その結果、多くの日本人からソーシャル・サポートを得ることができ、日本における被受容感を高めることができた。

(2) 一般他者に対する信頼感の高い留学生は多くの日本人と同国人からそれぞれソーシャル・サポートを得ることができたが、日本人から得られたソーシャル・サポートのみ留学生の日本における被受容感を高めることができたのに対して、同国人から得られたソーシャル・サポートは同様の効果が見られなかった。

(3) 日本語能力の高い人は一般的な日本人学生に対する好意度も高く、それは彼らの日本における被受容感を高める効果が見られた。

次に、2018年に実施した調査結果から、以下のことが明らかになった。

(1) 外集団に対する信頼感の高い人は対面でもメッセージングを用いても日本人と SSNs を形成することができた。

(2) LINE や WeChat などのメッセージングを介した SSNs には多くの同国人を含むが、その次に日本人、他国人という順で存在することが分かった。

(3) 対面による SSNs からもメッセージによる SSNs からも情動的サポートと情緒的サポートが得られたが、いずれも日本人からのソーシャル・サポートのみストレス感を軽減することができた(同国人と他国人からのサポートには同様の効果が見られなかった。

(4) 外集団に対する一般的信頼感(ストレス感を低減する効果があったのに対して、内集団に対する集団同一視はストレス感を高めた。

(5) 一般的信頼感の高い留学生は日本人と他国人から多くのソーシャル・サポートを得ることができたが、日本人からのソーシャル・サポートのみストレス感を低減する効果があった。一方、集団同一視傾向の強い留学生は同国人と大きな SSNs を形成し、同国人から多くのソーシャル・サポートを得ることができたが、それはかえってストレス感を高めてしまった。また、これらの結果は対面と IM によるコミュニケーションで形成した SSNs には同様であった。

(6) 中華系留学生 103 名(香港・台湾を含む)とその他の留学生 106 名に分けて検討した結果、その他の留学生の場合、集団同一視は同国人からのソーシャル・サポートとは無関係であった。なお、中華系留学生の場合、各変数の関係を検討するためのモデルは成立しなかった。

そして、2020 年に実施した With コロナ 1 年目の調査結果から、以下のことが分かった。

(1) COVID-19 に対して「非常に不安・不安」を感じたと回答した日本人学生は 70.4%であり、留学生は 74.8%であった。いずれも不安の理由として「強い感染力」や「人に移す可能性や特効薬がないこと」が最も多くあげられた。

(2) 日本人学生は Twitter やテレビから COVID-19 に関する情報を多く収集したのに対して、留学生はネットの専門記事、家族から多く収集した。

(3) 日本人学生も留学生も、健康危機意識が高く、あまり積極的に情報収集をしない人が不安を解消することができた。一方、日本人学生には情緒不安傾向や社会考慮意識、情報収集の方法数による影響も見られたのに対して、留学生には同様の影響がなかったが、居住形態や奨学金の有無等による影響が見られた。

(4) 中国本土の留学生 202 名とそれ以外の留学生 131 名に分けて比較したところ、以下の点が明らかになった。

他の留学生に比べて、中国本土の留学生は COVID-19 について早い時期から注目し、緊急事態宣言前からより頻繁に情報収集をした。しかし、中国本土の留学生の日本語能力は高いにも拘らず、テレビや新聞等による情報収集は少なかった。

いずれの留学生も同国人から多くのサポートが得られた場合 COVID-19 への不安を解消するには有効であるが、その他の留学生は日本人からも多くのソーシャル・サポートを得ることができ、それが不安解消行動に有効であった。

中国本土の留学生とその他の留学生は異なるソーシャルメディアを用いて情報収集をし、ストレス感を低減することができた。しかし、同国人と日本人から得られたソーシャル・サポートが少ない人がより不安を解消するための行動を取った。

さらに、2021 年に実施した With コロナ 2 年目の調査結果を基に、中国本土出身の留学生 160 名とその他の国・地域出身の留学生 204 名を比較・分析した結果、以下のことを明らかにした。

(1) 中国本土の留学生は日本語能力が高く、半数ほどは日常的にアルバイトをしており、奨学金を受給するのは 4 割未満であった。一方、その他の留学生の 8 割近くは奨学金を受給しており、7 割ほどはアルバイトをしていなかった。

(2) 中国本土の留学生の第一外国語は日本語である人が多く、日本語で授業を履修し、卒業論文等を日本語で執筆すると回答したのは 8 割ほどであった。その他の留学生の 8 割近くは英語で授業を履修し、卒業論文等を英語で執筆すると回答した。

(3) その他の留学生に比べて、中国本土の留学生の集団同一視は高かったが、留学の動機付けと学業的適応はいずれも低かった。また、中国本土の留学生の SSNs には 7 割以上が中国人であり、中国人からのサポートが最も多かった。一方、その他の留学生の SSNs の半数ほどは日本人・他国人であり、日本人や他国人からのサポートも多かった。

(4) 中国本土の留学生は中国語によるメディアへの接触頻度が高く、中国のメディアに対する信頼感が高かったのに対して、その他の留学生は母語以外の言語によるメディア使用の頻度が高く、それらに対する信頼感も高かった。また、日本のテレビ等の公的機関やマスメディアに対する信頼感もその他の留学生の方が高かった。

本研究プロジェクトは当初予定した目的を達成しただけでなく、COVID-19 の流行という特殊な状況下でも調査を実施し、中国本土の留学生とその他の留学生に分けてより詳細な検討ができた。本研究プロジェクトの検討により得られた知見として、主に以下の 2 点に集約できる：

日本人に対する信頼感を高めることは、通常時だけでなく、With コロナの状況下でも留学生のストレス感を低減し、不安を解消するためには非常に有効である。

中国本土の留学生とその他の留学生に提供すべきソーシャル・サポートが異なる。

本研究プロジェクトで得られた成果は学術的な面だけでなく、今後も引き続き多くの留学生を受入れ、グローバル社会として展開させていくには実践的な意味を持つと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Shaoyu Ye	4. 巻 15
2. 論文標題 Perceptions of the COVID-19 pandemic and anxiety-relieving behaviors after the lifting of the first state of emergency in Japan: Comparing international students from mainland China and others	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Socio-Informatics	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14836/jsi.15.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Shaoyu Ye	4. 巻 14
2. 論文標題 The effects of generalized trust and group identification on social support networks and feelings of stress in Japan: Comparing face-to-face and instant messaging	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Socio-Informatics	6. 最初と最後の頁 1 15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14836/jsi.14.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Shaoyu Ye	4. 巻 4
2. 論文標題 Trust, social support and adaptation: A study of international students in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Culture and History	6. 最初と最後の頁 13-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18178/ijch.2018.4.2.115	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 1件/うち国際学会 7件）

1. 発表者名 Shaoyu Ye
2. 発表標題 Communication media usage and cross-cultural adaptation
3. 学会等名 Cross-Cultural Adaptation for Asian People: Challenges and Self-Growth (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 叶 少瑜
2. 発表標題 留学生のCOVID-19に対する認識と不安解消行動の関係：中国本土の留学生と他の留学生の比較を通じて
3. 学会等名 電子情報通信学会誌研究報告(信学技報)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shaoyu Ye
2. 発表標題 Effects of social support on maladaptation in Japan: Comparing face-to-face and media usage
3. 学会等名 25th International Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 叶 少瑜
2. 発表標題 COVID-19に対する認識と不安解消行動との関係：日本人大学生と留学生の比較を通じて
3. 学会等名 2020年社会情報学会(SSI)学会大会研究発表論文集
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shaoyu Ye
2. 発表標題 Would you feel happier if you have more protection behaviors toward COVID-19? Comparing Japanese college students and international students
3. 学会等名 異文化コミュニケーション学会 第35回年次大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shaoyu Ye
2. 発表標題 Effects of social media use on international students' adaptation in Japan: From the perspective of trust and assurance
3. 学会等名 13th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shaoyu Ye
2. 発表標題 The effects of trust and group identification on social support networks and feeling of stress in Japan: Comparing face-to-face and instant messaging
3. 学会等名 異文化コミュニケーション学会第34回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shaoyu Ye
2. 発表標題 The relationship between international students' self-esteem, social support networks and adaptation in Japan
3. 学会等名 2018年異文化コミュニケーション学会国際大会 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shaoyu Ye
2. 発表標題 International students' trust, liking of Japanese students and intercultural contact with Japanese people
3. 学会等名 International Association for Cross-Cultural Psychology Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shaoyu Ye
2. 発表標題 Trust, social support and adaptation: A study of international students in Japan
3. 学会等名 2018 7th International Conference on Language, Media and Culture (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Shaoyu Ye
2. 発表標題 Culture, trust and adaptation: A study of international students in Japan
3. 学会等名 ICCC 2017: International Conference on Communication and Culture (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------